

防犯まちづくりのための 調査の手引き

〈実践編〉



みまもり量調査



車の通り抜け調査



くらがり調査



身近な公園調査

手引きの使い方

建築研究所では、2009年に『防犯まちづくりのための調査の手引き』（右図）を作成しました。これは、防犯まちづくりの現場において、交通安全の視点も含めて、地域の課題を客観的に把握するための手法を紹介したものです。

その「実践編」である本書は、上記手引きを使って、実際の調査に取り組んだ2事例を紹介するものです。みまもり量調査は実際の調査をふまえて、手法を詳しく解説しています。本書を参考に、各地区の特性を踏まえた調査を行ってください。



「手引き」の電子データは、建築研究所ホームページで入手できます。
(写真は概要版)

旭川市近文地区

みまもり
量調査



くらがり
調査



松山市久米地区

車の通り
抜け調査



身近な
公園調査

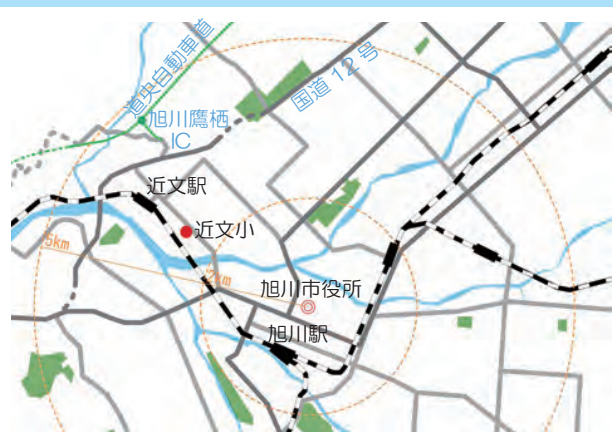


調査事例の紹介

— 旭川市近文地区 —

近文地区は旭川市内の住宅や商業、業務用建物が混在した地区（1小学校区）です。

2004年の大規模ショッピングセンターの出店をきっかけに、小学校での防犯や交通安全に関する取り組みが始まり、その後、社会福祉協議会をコーディネータに自治会や小中学校、高校などが連携して継続的にみまもり活動（近文あい運動）を行ってきました。



— 松山市久米地区 —

久米地区は松山市の南東部、市役所から約5kmに位置する郊外住宅地で、4小学校区（1中学校区）に対応します。

2004年度以降、公民館が主体となって安全マップづくりに取り組み、公園の見直し改善や街灯の増設などを行ってきました。2009年度は、前年の安全マップを受けて、久米小学校周辺の通過交通、福音公園の不安を重点課題に挙げていました。





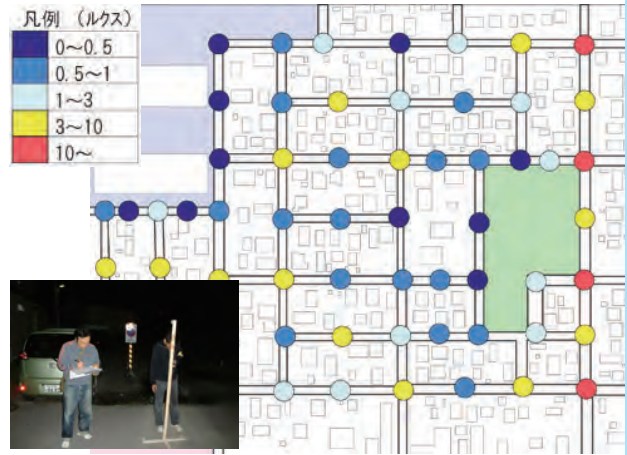
くらがり調査

くらがりの原因を把握する

近文あい運動「緊急」子どもを守るための住民懇談会&ネットワーク会議の主催で、くらがりに関するアンケート調査を実施するとともに、3日間をかけて、近文小PTAや教師などで、校区内の7地区（573地点）の水平面照度を調べました。

調査結果

- 道路上の照度の目安とされる3ルクスに満たない地点が約8割で、1ルクス未満の地点が半数以上を占めました。
- アンケートで指摘されたくらがりによる不安箇所の約9割が水平面照度3ルクス以下でした。



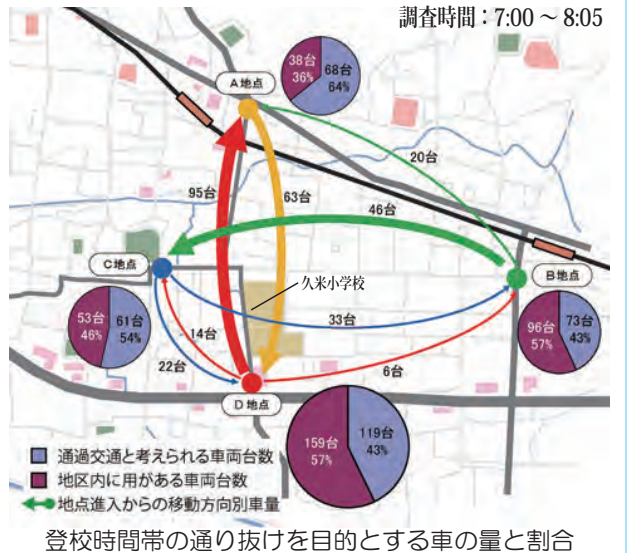
車の通り抜け調査

通過交通の量を把握する

久米小学校周辺の車の通り抜けが多いとされる道路を対象とし、登校・下校の時間帯に、小学校の協力のもとPTA、地域住民で調査を行いました。

調査結果

- 通り抜けを目的とした車は、各地点で全交通量の約40～64%で、とくに小学校前の南北方向道路の交通量が多くなっていました。
- 車の全交通量・通り抜けを目的とした車の量は登校時より下校時が多くなっていました。
- 速度調査の結果、規制速度を超える車も見受けられました。



身近な公園調査

公園の問題点を把握する

福音小学校の児童が利用する5つの身近な公園について、保護者の公園に対する意識調査と、児童と保護者による実地での防犯診断を行いました。

調査結果

- 高架下の福音公園は、保護者の不安は高いものの、児童の利用頻度は高いことが分かりました。
- 不安を持つ保護者は、子どもに利用させない傾向が見られました。
- 実地調査後のワークショップでは、問題点を解消すると同時に、より楽しい場所にしていくことの重要性が認識されました。

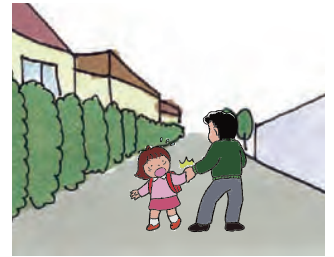




みまもり量調査

防犯まちづくりでは、人の目の存在がきわめて重要であるとされます。しかし近年では、特に住宅地において、核家族世帯や共働き世帯の増加などのライフスタイルの変化、それに伴う近所づきあいの希薄化、屋外での活動の減少により、地域の公共空間に注がれる自然な人の目が減少していると言われています。

ここでは、自然な人の目を量として把握する調査方法を紹介します。この方法により、対策が必要な場所や時間を客観的に把握することができます。



1. 調査の方法

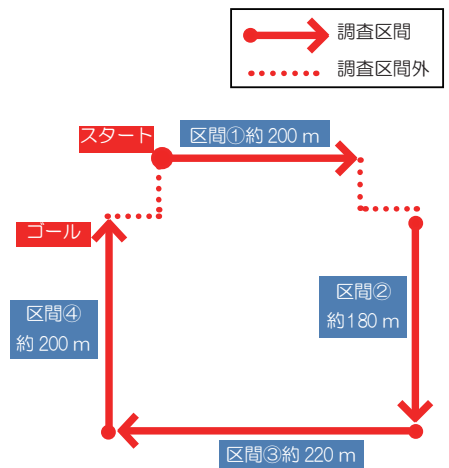
調査対象

地区全体のバランスや土地利用の状況（住宅地や商業地、工業地域など）、犯罪発生状況などを考慮して、人目の少ない道路や通学路を優先して選定します。

交差点間を1区間として、複数の区間をつなげた15分程度で歩けるルート（約1km）を設定します。近文地区では3つのルートを設定しました。

なお、以下のような道路は、調査対象に含みません。

- 自動車の交通量の多い幹線道路など、常に十分な人目のある道路
- 利用者がそこに住む人に限定されるような道路（細い路地や行き止まりなど）



調査ルートのイメージ

調査時間

子どもの安全確保のためには、下校後の時間帯が望ましいと言えます。地区で路上犯罪や侵入盗が発生しやすい時間帯も参考にしてください。

調査体制

地元の自治会や防犯ボランティア、学校やPTAなどが考えられます。近文地区では地元の高校生の協力を得ました。

記入内容

子どもが歩くスピード（約1m/秒）で歩きながら、次の項目を記録用紙（右ページ参照）に記入していきます。

○歩行者、自転車、自動車・バイクの数

記録用紙の分類にあわせて、すれ違った人数（台数）を「正」の字で記入します（追い越された場合は数えません）。近文地区では未就学児の数は含めませんでした。

○沿道で活動している人の数

道路付近（道路端から約12m）の屋外で活動している人を数えます。

近文地区で見られた沿道活動の例

立ち話、庭いじり、遊び、仕事（配達など）、掃除、洗濯、車の手入れ、みまもり活動、雪かきなど



みまもり活動



庭いじり

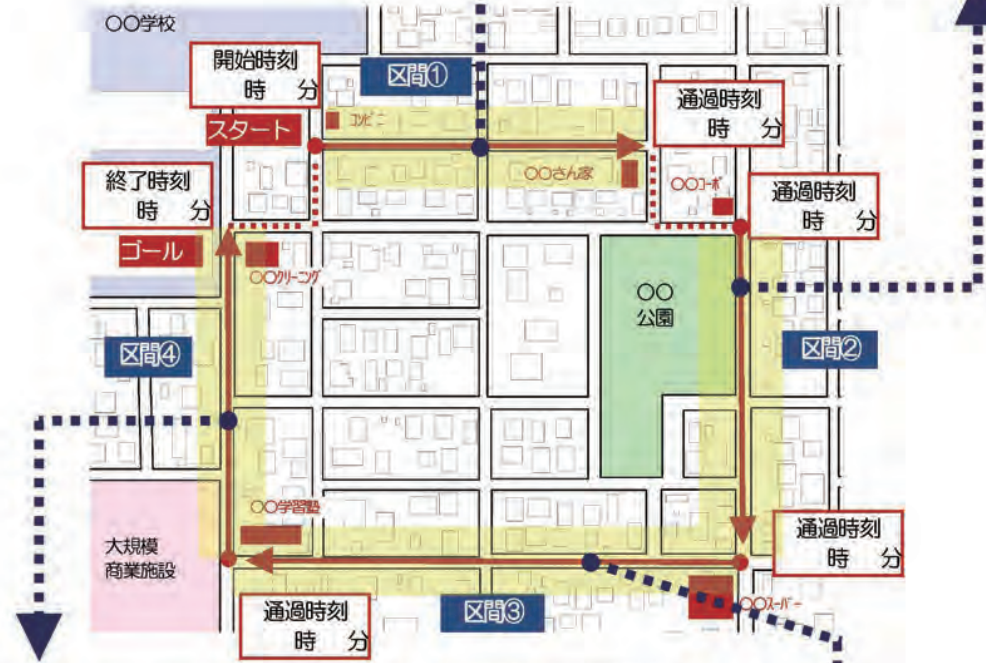
集中型みまもり量調査(集中調査) 調査票
ルート1 OO公園付近

コースA
 ○月○日 15:00~15:15 (3回目)
 記入者名:

沿道活動等の詳しい内容がわかると、みまもり量を増やすためのより具体的な対策がたてやすくなります。とくに日常調査では、調査員の負担が大きくなりすぎないように、表の区分を少なくするなどの工夫をすると良いでしょう。

区間①	歩行者	自転車	沿道活動者											
			立ち話	麻いじり	遊び	(配達等)仕事	掃除	洗濯	手入れ	車の活動	みまもり活動	雪かき	その他	
みまもり活動														
小学生														
中学生														
未就学児連れ														
その他一般														
自動車(台数)			バイク(台数)											

区間②	歩行者	自転車	沿道活動者											
			立ち話	麻いじり	遊び	(配達等)仕事	掃除	洗濯	手入れ	車の活動	みまもり活動	雪かき	その他	
みまもり活動														
小学生														
中学生														
未就学児連れ														
その他一般														
自動車(台数)			バイク(台数)											



区間④	歩行者	自転車	沿道活動者											
			立ち話	麻いじり	遊び	(配達等)仕事	掃除	洗濯	手入れ	車の活動	みまもり活動	雪かき	その他	
みまもり活動														
小学生														
中学生														
未就学児連れ														
その他一般														
自動車(台数)			バイク(台数)											

区間③	歩行者	自転車	沿道活動者											
			立ち話	麻いじり	遊び	(配達等)仕事	掃除	洗濯	手入れ	車の活動	みまもり活動	雪かき	その他	
みまもり活動														
小学生														
中学生														
未就学児連れ														
その他一般														
自動車(台数)			バイク(台数)											

記録用紙の例

調査方法としては、以下の2種類の方法があります。

どちらの方法がよいかは、調査を行う地区の特性によって異なりますが、近文地区では、はじめに集中調査、次に日常調査と、両者を組み合わせて実施しました。

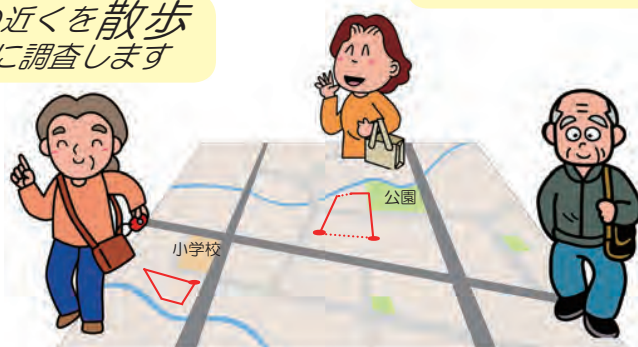
A. 日常調査

特徴

- 散歩や買物をかねて、それぞれの方が任意の時間に行います。
- 継続的に実施することで、季節や時間、天候による変化をみることができます。
- 自ら調査を行うことで、地域の方々の地域への関心や問題意識が高まります。

小学校の近くを散歩
のついでに調査します

公園の近くを買物の
ついでに調査します



調査そのものが
みまもり活動
にもなります

留意事項

調査票は定期的に回収し、参加者に途中経過を知らせましょう。特定のルートや時間帯に偏らないよう修正できます。また、参加者のやる気の継続にもつながります。

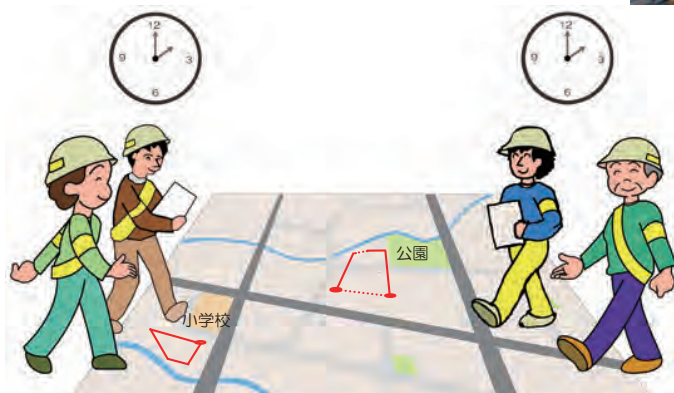
B. 集中調査

特徴

- 決められた日時に調査します。
- 決められた時間間隔、ルート、方向に調査します。
- 一度に多くの人手が必要ですが、一日で調査できます。
- 事前に十分な説明を行うことで綿密かつ計画的な調査できます。



近文地区での説明会



各ルートの調査員2名は、決められた時間にそれぞれ逆方向に歩き始めます。1時間に3回程度調査を行います。

留意事項

調査日は平日とし、学校が休みの時期やイベントがある日などは避けましょう。

2. 調査結果の整理・分析

集計方法

区間ごと、時間帯ごとに、歩行者、自動車、自転車、沿道活動者の人数・台数の平均値を求め、100m 当たりに換算します。

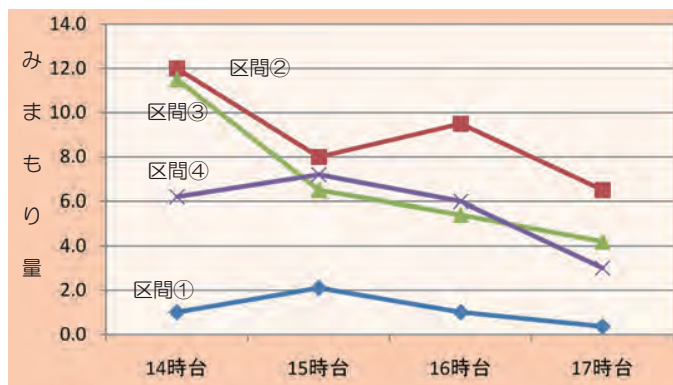
ただし、歩行者 1 人と自動車 1 台では、みまもりの効果は異なります。そこで、みまもり量を計算する際には、歩行者を基準に右表のようにそれぞれ換算します。

	歩行者 沿道活動者	自動車	自転車
人数・台数	1人	1台	1台
みまもり量換算値	1	2 / 7	2 / 3

例えば、歩行者 2 人、自転車 3 台と 200m の区間ですれ違った場合のみまもり量は $(2 \times 1 + 3 \times 2/3) \div 200 \times 100 = 2$ となります。

よって、みまもり量が 1 に満たないことは、平均すると、その時間帯・区間を 100m 歩いて歩行者 1 人もすれ違わないことを意味します。

調査結果



みまもり量調査結果 (例)

例えば、左図のような調査結果の場合、以下のことが言えます。

- 全区間において 17 時台のみまもり量が最も低い。
- 区間③は 14 時台から 15 時台にかけてみまもり量の減少幅が大きい。
- どの時間帯でも区間①のみまもり量が他の区間に比べて低い。15 時台の区間①のみまもり量は区間②の約 1/4 に過ぎない。

3. 解決に向けて

調査結果をふまえて地域の課題に応じた解決策を考えましょう。以下は一例です。

○効率的なパトロール

みまもり量が少ない通りや時間帯を踏まえ、必要なところを重点的にパトロールしましょう。

○見通しの良い外構への改善

沿道活動と歩行者が相互に見えるようにブロック塀を生垣に変えたり、生垣を剪定したりするとよいでしょう。

○日常生活活動による参加

みまもり量が少ない時間帯に、掃除や庭の手入れ、散歩、ジョギングをしましょう。

○歩きたくなる道づくり

道路を歩行者優先の設えに改造することで、安全快適な歩行者空間となり、みまもり量の増加につながります。

○公園周囲のにぎわいづくり

公園をみまもることのできる場所にベンチや憩いの場を設けるとよいでしょう。公園の近くに公共施設があれば、公園利用が多い時間にあわせて利用を促すことも有効です。

見守りフラワーポット大作戦

愛知県安城市篠目町では、フラワーポットを各家庭の玄関先などに置き、子どもの登下校時に水やりなどをして、「地域の目」を増やす試みを行っています。近所の話題にして、地域の間関係を深める狙いもあります。



調査後の取り組み

旭川市近文地区

調査結果は、地区のネットワーク会議で報告されました。

くらがりの問題については、現地を再確認した上で、街灯設置や門灯の点灯時間の延長について検討することになりました。

みまもり量の少ない地区では、みまもり活動の強化や、除雪や散歩などの日常活動を通じたみまもり量の増加方策を検討・実施していくことになりました。また、みまもり量の推移を把握するため、継続的に調査を実施していくことになりました。



ネットワーク会議での報告会



地域の声 ～近文地区社会福祉協議会会長 西出元さん～

2006年6月から児童の登下校を見守る「近文あい運動」を行っています。今回の調査は、PTAや学生など大勢の方々に協力をいただきました。集計では専門家の協力を得て、大変助かりました。

みまもり量の少ない場所で見守りを行うなど、調査の結果を今後のあい運動に活用していきたいと考えています。

松山市久米地区

調査結果は、専門家からの提案と合わせて、地区の青少年健全育成連絡会で報告されました。

通り抜けの問題については、自動車よりも歩行者優先の生活道路として位置付ける必要性が認識され、新たな交通規制などの可能性が模索されています。

福音公園については、小学校と地域組織による「考える会」を設置し、高校生ボランティアの協力も得て「大人の目によって守られた、全天候型の楽しい公園」づくりを目指しています。



2009年度の安全マップづくり



地域の声 ～久米地区青少年健全育成連絡会会長 安永耕造さん～

2005年からの「安全マップづくり」を通して、地域の危険な所を少しずつ改善する努力をしています。

「通学路はとにかくゆっくり走ろう」という意識づけをするための啓発ステッカーを作り、ゆっくり走ろう運動とみまもり隊活動を継続して行っていきたいと思っています。